

17. 三核種オートラジオグラフィによる IMP の early, delayed image と代謝の比較

—tamura のモデルにおける検討 1—

大場 洋 松田 博史 今井 啓子
寺田 一志 辻 志郎 久田 欣一
(金沢大・核)

脳梗塞モデルラット (tamura のモデル) を用い、三核種オートラジオグラフィを施行し、ラット脳の同一スライスから ^{123}I -IMP により、early image を、 ^{125}I -IMP により delayed image を、 ^3H -アミノ酸または ^3H -デオキシグルコースにより代謝 image を得た。それぞれの image をデジタル処理し、再分布 image を作成した。血流のほとんどない領域を除き、血流の少ないところほど大きく再分布する傾向がみられた。すなわち脳組織の IMP 保持能力はかなりの虚血に対しても保たれていると考えられた。また血流の多いところでは逆再分布の現象もみられた。

18. ハロペリドール急性投与による脳血流に及ぼす影響

森 厚文 柴 和弘 (金沢大・RI セ)
松田 博史 久田 欣一 (同・核)
川崎 康弘 鈴木 道雄 山口 成良
(同・神経精神)
倉知 正佳 (富山医薬大・精神)

ウィスター系ラットを用いて、代表的抗精神病薬であるハロペリドール急性投与の脳血流に及ぼす影響について検討した。脳血流は N-Isopropyl-p-[I-125]iodoamphetamine を使用したオートラジオグラフィ法 (reference sample 法) を用いて測定した。その結果、各測定部位の血流絶対値には有意な影響は認められなかったが、Habenula において相対的血流増加を認めた。また 4 か所 (Primary Cortex, Hypothalamus, N・caudatus-putamen, Substantia nigra) において左右差が認められた。